

平成26年度

教育要覧



佐久市教育委員会

目 次

I 佐久市の概要	
1 佐久市の沿革	1
2 位置と地勢	2
3 気候	3
4 人口と世帯数の推移	3
5 佐久市合併系図	4
II 教育委員会	
1 教育委員	5
2 教育委員会開催実績	6
III 教育基本方針	
1 佐久市が目指す将来都市像	1 3
2 基本方針	1 3
3 佐久市学校教育の目指す方向	1 3
4 佐久市社会教育の目指す方向	1 7
IV 教育行財政	
1 教育行政の歩み	1 9
2 教育行政の歩み（旧市町村）	2 4
3 平成26年度教育委員会機構図	3 2
4 平成26年度教育委員会事務局等職員数	3 3
5 教育委員会の所管する条例・規則・要綱等	3 4
6 教育委員会及びその附属機関等	3 7
7 平成26年度教育委員会事務局等の事務分掌	4 0
8 平成26年度佐久市一般会計予算の状況	4 3
9 平成26年度教育費予算の状況	4 4
10 平成26年度教育費予算対比表	4 5
V 学校教育	
1 小・中学校名および所在地、学校長名、通学区	4 6
2 小・中学校別児童・生徒数、学級数一覧（平成26年5月1日現在）	4 8
3 小・中学校別教職員数一覧	4 9
4 小・中学校別建物等保有状況	5 1
5 教職員住宅一覧	5 2
6 学校給食施設一覧	5 3
7 各種施策の推進	5 5
学力向上事業	5 5
体力向上事業	5 5

生徒指導事業	56
教師等の力量向上事業	58
国際理解教育	60
健康・安全	61
教育扶助	63
幼稚園	65
奨学制度	66
8 統計資料	67

〈平成26年度小学校16校・中学校7校の教育目標〉

岩村田小学校	69
平根小学校	70
中佐都小学校	71
高瀬小学校	72
野沢小学校	73
泉小学校	74
岸野小学校	75
中込小学校	76
佐久城山小学校	77
東小学校	78
田口小学校	79
青沼小学校	80
切原小学校	81
臼田小学校	82
浅科小学校	83
望月小学校	84
浅間中学校	85
野沢中学校	86
中込中学校	87
東中学校	88
臼田中学校	89
浅科中学校	90
望月中学校	91

VI 社会教育

1 生涯学習

社会教育事業	92
生涯学習推進事業	92
青少年健全育成事業	93
青少年補導活動事業	94
ふるさと創生人材育成事業	96

子どもセンター事業	97
青少年健全育成審議会	97
2 文化振興	
文化振興事業	99
文化施設管理運営事業	100
佐久市生涯学習センター	100
佐久市コスモホール	101
佐久市交流文化館浅科	102
佐久市鎌倉彫記念館	103
佐久市天体観測施設（うすだスタードーム）	104
佐久市臼田文化センター	106
佐久市五郎兵衛記念館	106
佐久市立天来記念館	107
佐久市立望月歴史民俗資料館	109
佐久市川村吾蔵記念館	110
3 社会体育	
スポーツ大会・スポーツ教室等の状況	112
体育施設の利用状況	116
社会体育施設	119
4 文化財	
文化財保護事業	120
指定文化財一覧	121
国登録有形文化財	124
国史跡・重要文化財 旧中込学校及び資料館	125
ガソリンカー及び蒸気機関車	126
島崎藤村旧宅	126
国史跡 龍岡城跡	127
文化財調査事業	128
佐久市の遺跡と歴史年表	130
5 公民館	
方針、重点事項	132
本館・地区館	133
佐久市地域公民館活動組織図	133
公民館の活動	134
市民会館等	138

6 図書館	
佐久市立図書館の概要	139
図書館別・分類別蔵書冊数	140
利用状況	145
7 近代美術館	
主要事業	147
市立近代美術館の概要	148
8 人権同和教育	
事業方針	150
人権同和教育・啓発事業	151
同和対策集会所	152
人権同和対策・人権同和教育の推進体制	153

I 佐久市の概要

1 佐久市の沿革

「佐久」の名が初めて記録に現れるのは、1500余年前に編さんされた、我が国六国史の一つに数えられる「三代実録」です。

次いで後醍醐天皇の時代にできた延喜式中にも記されており、有史以前の石器使用民俗を実証する数々の遺跡も発掘され、縄文時代以後の遺跡は市内いたるところに散在しています。平安末期から鎌倉時代にかけて大井庄、伴野庄、平賀庄などの荘園の繁栄がみられます。応仁の乱後、更埴地方に勃興した村上氏の治下に入りましたが後に、甲斐武田氏の支配下となりました。やがて徳川幕府となり、天領、私領が錯綜し、変遷は複雑をきわめています。

明治4年筑摩・長野の2県となり、佐久は長野県管轄となりました。佐久支庁を岩村田に置き佐久郡を管轄しました。明治9年に2県は合併され長野県となり、佐久支庁を廃し佐久取締所となりました。同年12月には佐久取締所を廃し佐久郡を二分し、それぞれの取締所が岩村田と臼田におかれしました。

その後、明治22年の「市制町村制」施行に伴う「明治の大合併」、昭和28年の「町村合併促進法」制定に伴う「昭和の大合併」という2つの大きな合併が行われ、合併特例法（平成7年改定）による「平成の大合併」前の市町村の姿ができあがりました。

昭和の大合併から40年余、社会経済情勢が大きく変化する中で、新たな諸課題への対応が求められ、市町村の行財政基盤を強化する必要が生じてきました。

このような中、合併についての調査・研究が進められ、平成15年12月には佐久市・臼田町・浅科村・望月町による法定合併協議会が設置され、平成17年4月1日、佐久市、臼田町、浅科村、望月町の4市町村が合併し、10万都市・新「佐久市」が誕生しました。

〈旧4市町村の変遷〉

■旧佐久市は、昭和36年4月1日、北佐久郡浅間町、東村、南佐久郡野沢町、中込町の3町1村の合併により長野県内で17番目の市として誕生しました。

江戸期には中山道と佐久甲州街道の結節地として交通の要所にありました。

近年においては上信越自動車道や北陸新幹線、さらには中部横断自動車道といった高速交通網の整備が飛躍的に進み、とりわけ、北陸新幹線佐久平駅周辺は大きな変貌を遂げ、長野県内有数の商業圏を形成しています。

江戸時代から始まった佐久鯉や、多くの造り酒屋から生産される伝統的美酒は佐久の清流が育てる全国ブランドです。教育への情熱の象徴である旧中込学校は、日本最古の擬洋風学校の一つとして国の重要文化財に指定されています。

また、全国各地からの選手たちがその技を競う佐久バルーンフェスティバルや、日本五大稲荷といわれる鼻顔稲荷神社初午祭の賑わいは、佐久の風物詩として定着するなど高速交通網の整備とともに、人・モノ・情報の交流が盛んになっています。

■旧臼田町は、昭和32年4月1日、田口青沼村、臼田町が合併し、臼田町が誕生しました。幕末の激動のさなかに、西洋式の築城法を用いて造られた龍岡城五稜郭は我が国には2つしかない星型稜堡の様式築城で、貴重な歴史遺産であり、お堀、土居、お台所が遺されています。

明治の時代には郡役所ができ、その後警察署、裁判所の出張所などの重要な機関が集結し、行政・治安・経済、あらゆる方面において発展しました。

また、農村医学の発祥の地、ハレー彗星大接近を契機に建設された大パラボラアンテナなど、地域の特性を生かしたまちづくりに取り組んできました。

古くからの伝統行事である新海三社神社の御田植祭・御神符祭、また天下泰平・五穀豊穰を祝う神事である湯原神社式三番は、250年余の前から続く山村の郷土芸能で、脈々と後世に受け継がれています。世界的に著名な彫塑家の出身地でもあり、先人が遺した歴史・文化遺産は、貴重な文化財として現在に息づいています。

■旧浅科村は、昭和30年1月15日、中津村、五郎兵衛新田村、南御牧村が合併して誕生しました。川越しの宿である塩名田宿、第14代将軍徳川家茂に降嫁した皇女和宮が宿泊した八幡宿は今でも街道筋の随所にその面影を残しています。

全国の疎水百選に選ばれた五郎兵衛用水から引かれた豊富な水と、千曲川の豊かな流れがもたらした肥沃な耕地から収穫される五郎兵衛米は天下の美味として全国でも高い評価を受けています。

■旧望月町は、昭和34年8月、本牧町、布施・春日・協和村の1町3か村が合併して誕生しました。望月の北東の御牧原台地は平安時代初期に朝廷直轄の「勅旨牧」(牧場)があり、美しく力強く成長した馬は最高の良馬として「望月の駒」と称され、都に献上されました。江戸から碓氷峠を越えた中山道は、小田井、岩村田、塩名田、八幡の各宿を経て、望月宿に入ります。望月宿、そして「間の宿」と呼ばれた茂田井は今でもかつての風情を色濃くとどめています。また、鎌倉時代から建立された石造物は3千体を超え、旅の安全、村の平穏を見守ってきました。

江戸時代以前から続く伝統的な火祭りで、信州の奇祭として広く知れ渡る榊祭りや望月駒の里草競馬大会には多くの観光客が訪れます。書の天才を生み、歌人に愛された文化と芸術が息づく里として、また湯の里として、その伝統は、今も脈々と引き継がれています。

2 位置と地勢

佐久市は、長野県の東部にあり、県下4つの平らの一つである佐久平の中央に位置しています。北に浅間山、南に八ヶ岳を望み、蓼科山、双子山、荒船山などに囲まれ、千曲川が市の中央部を南北に貫流する、自然環境に恵まれた高原都市です。

(1) 位置

佐久市中込3056番地(佐久市役所)

東経 138度28分37秒

北緯 36度14分56秒

海拔 692メートル

(2) 面積

423.99平方キロメートル

(東西32.1キロメートル、南北23.1キロメートル)

3 気 候

佐久市は、高燥冷涼で寒暖の差が大きい内陸性気候であり、年間の平均気温は約 11℃と涼しく、降水量は年間 1,000mm 前後と全国的にも少ない地域です。

日照時間は、年間 2,000 時間前後と、年間を通して晴天率が高い地域です。

4 人口と世帯数の推移

近年における国勢調査では、平成7年は97,813 人、平成12年が100,016 人、平成17年では100,462 人、平成22年では100,552人と本市の人口は増加傾向にあります。

一人の女性が、生涯に生む子どもの数の平均を示す合計特殊出生率の長期低落傾向が続き、全国の平成17年の出生率は1.26と過去最低を更新し、人口の減少が大きな社会問題となっています。しかし、本市の平成17年の出生率は、1.44と全国値を上回っており、平成22年では1.57となっています。

年 度	男	女	計	世帯数
平成 17 年度	49,746	51,647	101,393	37,122
平成 18 年度	49,671	51,583	101,254	37,535
平成 19 年度	49,626	51,512	101,138	37,829
平成 20 年度	49,502	51,479	100,981	37,816
平成 21 年度	49,469	51,475	100,944	38,299
平成 22 年度	49,469	51,482	100,951	38,555
平成 23 年度	49,339	51,426	100,765	38,854
平成 24 年度	49,198	51,298	100,496	39,132
平成 25 年度	49,014	51,186	100,200	39,495
平成 26 年度	48,935	51,061	99,996	39,824

資料 男女別人口及び世帯数：住民基本台帳＋外国人登録（4月1日現在）

5 佐久市合併系図

